



写真:ヒヨドリバナとアサギマダラ (撮影:平成19年8月11日)

「アサギマダラ」

夏から秋にかけて、薄い水色で水玉模様のやや大きなチョウ、アサギマダラを見かけます。

えびの高原では、さまざまなチョウを見ることができませんが、時期によって現れる種類は異なります。その移り変わりで季節を感じるができます。

夏から秋にかけて、薄い水色で水玉模様のやや大きなチョウ、アサギマダラが見られます。

アサギマダラは、幼虫期に有毒のガガイモ科のキジヨランなどを食べて育つため、体内に毒を持っています。そのため鳥などに襲われにくいのか、風に乗ってふわふわと飛んでいます。ヒヨドリバナやアザミなど、キク科の花の蜜を吸っているのをよく見かけます。

アサギマダラは、夏に南から北へ、秋には北から南へ「渡り」をすることが知られています。

アサギマダラの「渡り」について調べるため、マーキング調査(羽根にマークを書いて放し、再捕獲された場所を調べる)が行われています。調査では、夏に東北地方で確認されたアサギマダラが、その年の秋に2000 km以上離れた沖縄県で見つかったこともあり、小さな体で長い旅をすることに驚かされます。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

アサギマダラ
Parantica sita

タテハチョウ科マダラチョウ亜科
 アサギマダラ属